

ウエルリントンの部下

建國の大精神に鑑みて

の襲撃に當りがたいのを憂へ「諸子よ、頑強なれ、本國にて同胞が吾等を何んと言ふやを一考せよ」と言つて兵士を勵ました。するに彼等は「一齊に閣下、請ふ意を安んぜよ、吾等は吾等の職分を知るものなり」と答へたと言ふ。

吾等帝國臣民は、吾が建國以來祖先より承繼せる忠君愛國の大精神に鑑み、如何なる仕事に對しても、一層責任觀念を高め、以て吾國の富強繁榮を圖らねばならぬ。

### 一三 協同の精神

善事に協力する心

善事に協力する心……自他を正しくせよ……惡人跋扈善人閉息……協同精神の乏しい理由……紐育の砂糖不買同盟……英國のフード、カウシル……倫敦市民の協力……O、N、Sの使命……支那人よりも劣る……明治維新と薩長土肥聯盟……大正維新と政治更新聯盟……盲と聾と聵の協同……

協同の精神とは、社會全體の爲めになる場合には、直ちに進んで相互に協力する道徳心である。此の道徳心が缺乏すると、一面に悪い者があつて悪い行をして、之に對抗する勇氣なくして、其の跋扈に任せることになり、又他の一面には、誰かが立つて悪い者を退治しやう



自他を正しくせよ

とした時、他の人々がこれを見棄て、顧みぬ爲め、世中に正義の光が輝かぬことになる。人は己れのみ正しうしたとて、人たるの本分を盡したるものとは言へぬ。己れを正しうするのみならず他人をも正しくしなければ、結局世の中では正しからざるものの爲めに、多くの正しき者が常に苦しめらるる事となる。世の中に騒動が起つて秩序の亂れるのは、多く悪い行ひをするものを、世の中の人々が協同して正しからしめないが爲である。此點に於て吾國民は最も反省せねばならぬ。吾國も雖も善人は悪人よりも遙かに多い。然るに協同の精神が缺けて居るため、到る所少數の悪い者が跋扈し、多くの善人が苦しめられて居る。若し吾が國民にして協同の精神さへ強ければ、現在吾社會に於けるが如き幾多の不正な行は、容易に之を匡正することが出来る。然るに此事が行はれぬ場

悪人跋扈善人閉息

合が多いのは、全く協同の精神がない爲である。

吾が國民が協同の精神に乏しいのは、多年封建制度の下に壓迫された結果であつて、吾國の歴史を見ても、個人的には正義の爲め犠牲になつた例が少なくなく、彼の佐倉宗五郎の如き、其の顯著なる一例であるが、正しき目的のために團體的に協同して働いた例は少ない。是れ武家政治の下に於ては、當時の権力者が人民の行ひを取締るに餘りに峻酷を極めたるため、非凡なる犠牲心を有する人にして初めて正義の爲めに立ちて戦ふ事が出来たが、尋常の人は、恐れて之れに近寄り得なかつたためである。今日に於ても、尙協同の精神が吾が國民に乏しいのは、之に起因するのである。

協同精神の乏しい理由

一昨年、紐育に於て砂糖の買占めが行はれた事がある。其時砂糖の相



紐育の砂糖不買同盟

場が日々騰貴する爲め、吾々日常の生活品たる砂糖の買占めを行ふは都合なりとして、砂糖不買同盟を發起せるものがあつて、それを月曜日に発表したところ、三日間に紐育の婦人二百萬人が加盟した。紐育市の人口は五百八十餘萬人である。其内より二百萬人の婦人が加盟したとすれば、紐育の各家庭が全部砂糖不買同盟に加はつたと言つてよい。而してそれが爲め、買占は失敗して、砂糖の相場は直ちに暴落した。又アメリカに於ては、上下兩院議員杯に非難すべき行ひがあつた場合に、婦人が團結して之を攻撃し、遂に葬り去つた例が少なくない。上院議員ジエームス・リード氏の如きも、苦められた一人である。

英國人も亦極めて協同の精神に富んだ國民である。昨年の夏頃、英國で食糧品の値段が暴騰し始めたので、輿論は、是は大小の商人間に不正

英國のフード、カウンスル

なトラストが行はれて居るがためであるとして、政府に之が徹底的の調査を迫つた。よりにて政府は直ちに臨時勅命調査委員會を設けて、各方面に就て取調を始めたが、その眞因を極めることが仲々困難であつた。そこで、委員會は更に政府に勸告して「フード、カウンスル」と稱する食糧品相場評議會を常設せしめ、夫れ々々委員を任命した。處が、この評議會は一つの監視機關であつて、何等法律上の権限を與へられたものではなく、首相が任命した男女の識者を評議員とする評議會は、暴利を貪る者を發見したる時は之に好意の忠告を與へ、效なき時は之を商務省に報告するの義務を附せられたのである。一見、斯様な機關が限られた議員を以てその目的を達することは困難の仕事であつて、當時これを冷笑する新聞もあつた。然るにこの一小機關が如何なる法律を以ても能く爲し得



倫敦市民の協力

なかつた食糧品値段の引下に成功し、間もなくパンの値段が十片から八片半にまで引下げられて、英國の諸新聞は何れも同會の大成功を稱賛した。これは何故であつたかと言ふに、この監視機關が出来ると共に、倫敦市民は、己等の共同の利益の爲めに努力して呉れるこの會と協力するに努め、毎日諸方より山の様に澤山の情報を評議會に送つた。これがために、評議員會は非常に調査上の便利を得て、意外の進捗を來たし成功したのである。これは國民が協力して社會全體の利益幸福のために協同の精神を發揮した例である。特に政府が法律規則を以て取締りを爲さずこの協同機關に依つたことなご洵に味はふべき事柄である。

O、M、Sの使命

また最近英國で出來た通稱O、M、Sと言ふ國民同志組合の如きは總同盟罷工に依つて國民に生活必需品の供給が絶たれた場合、老若男女を問

はず協同一致して自ら進んで此等必需品の生産、運搬、分配等の仕事に當らんとするものであつて、先頃、鐵道ストライキの時も、國民が協力して運搬の任に當つたことがあるが、今回それが一の團體に組織され、將來に備へたのである。かくの如き制度の是非は別問題として、國民が政府にのみ頼らず、協力して、社會の爲めに進んで盡くさんとするところは、吾が國民の大に學ぶべきところである。

かくの如く、政治上に於ても社會上に於ても、西洋人は常に強い協同の精神を現はして居る。然るに此點に於て、吾が國民は、時としては支那人に百歩を譲る場合がある。先年も、日貨排斥に對し、支那商人の團結の強い爲め、東京や大阪神戸等の商業會議所の有力者が、彼地に渡つても遂に諒解を得ざる結果に至らしめた事がある。吾國商人は、殘念な

支那人よりも劣る



がら此の強い團結心がない。吾國に於ては、直接或る團體の眼前の利害に關する場合には、可なり團結心が強いが、一度間接の利害となるか、又は他の團體の利害のみにて自己の團體に左程利害關係がない時は、全く協同せぬ。此の道徳心の弱い爲め、社會上に於ては常に正義が行はれず政治上に於ても悪い者が蔓り、公正なる政治が行はれぬ。

明治維新ニ薩長土肥聯盟

維新の當時幕府は長い間巧みに薩長の間を離間したため、容易に王政復古の目的を達せしめなかつた。後久しきに及んで、薩長土肥の志士が相互に反目するの不利を悟り、聯盟して幕府に當るに至つて、容易に其の目的を達したのである。吾國現時の政界を革新するが如きは、一度吾國國民の間に協同の精神さへ現はるるに至らば、昔と違つて、憲法政治の下にある今日其の目的を達する事は、薩長當時の志士の困難せるに比

大正維新ニ政治更新聯盟

すれば、極めて易き事柄である。然るに、此の易き事すら回避して協同しない爲め、腐敗せる吾國政界が廓清されぬのである。

盲聾之聲の協同

昔の話に、盲人と聾者が、或所で火事に出會したことがある。火事と言ふ聲を聾者が第一に聞いたが、腰が立たない、盲目が其聲を聞いても方角が分からない、聾は平氣で居つた。あわや三人が焼死せんとする所へ、機轉のきいた一人が馳付け、盲目に聾を負はせ、聾に手を引かせて、盲目の肩から聾が逃げる方角を指し、聾が手を引いて走つて、其の難を免がれたと言ふ。此話は、吾々には一大教訓を與ふるものである。何事でも、銘々が離れ／＼となつては、決して大なる力となる事は出来ない。假令各自の立場が異なつても、正しい事の爲には、相互ひに協同一致して、其の目的を達する事の必要を悟らねばならぬ。



### 一四 失敗

人生は失敗の歴史……エジソンの失敗……天與の才能……スマイルズの失敗観……七轉び八起きの覺悟……コブデンやヂスレリーでさへ……私の失敗録……此の失敗に鑑みて……休息も亦苦痛……少く借りる……禍を轉じて福爲せ……道義的勇氣……「失敗は人生の至寶なり」……

人生は失敗の歴史

人生は失敗の歴史なりと言ふべきである。或は失敗に依りて得たる經驗によりて成功する歴史とも言へる。

學生が、初め或科目を嫌ひ、愈々試験に失敗して、己れが之に適せないことを知つて、他方面に自己を適用する途を見出だし、却つて大いに

エジソンの失敗

成功せる例も少くない。彼の有名なる發明家エジソンが、八才の時初めて小學校に行き、三ヶ月ほど通學すると、受持教師は、此のお子さんは學問は廢された方がよろしからうと言ふ様な意味の手紙を持たせて歸して來たさうで、母親は止むなく學校を止めさせて、合間／＼に教育をして居た。エジソンの家は貧乏であつたから、十二歳の時にデトロイド市とヒューロン間を往復する列車中で、新聞や菓子賣子の賣子になつたところが、エジソンは化學に興味を持ち、自分の事務室内に化學實驗機械を備付け、暇さへあれば讀書と實驗に耽り、刻苦勉強して怠らなかつた。所が一日不幸にして實驗用の燐の容器が棚より墜落して破壊し、發火したのを車掌に見付けられ、ヒドク叱られた事がある。其後、マウント・リンメンス停車場の驛長が、エジソンの天才を愛し、一週間に四回宛、電信法



天與の才能

スマイルスの失敗  
觀

七轉び八起きの覺  
悟

を教授した。是れ氏が十五歳の時であつて、後年電氣學界に非凡の技倆を發揮するに至つた端緒である。

斯くの如く、人々は常に天より與へられたる才能があるから、學校で落第した位の失敗で悲觀するやうではならぬ。彼のスマイルスの言を味ふべし。「人は成功を求めて成功するものにあらず、人は失敗を得て初めて成功するものなり、世中に最も良き經驗は失敗よりなるものである、たゞ、異なる所は失敗により挫折するものと、失敗に因り將來に備へ益々奮勵努力するものとの相違があるのみである」

世中に、初めより成功したものは後必らず失敗を重ね、成功せる儘一生を終れるものは皆無である。成功の域に達する迄には、幾回も失敗を重ねるものと覺悟して居らねばならぬ。失敗は却つて勇氣を起さしめ、

新なる奮闘力を鼓舞するものであつて、失敗したる多くの人々が、後に至つて大いに成功したる例は幾多もある。

コブデンはマンチエスターの公會に於て、初めて演説を試みたる時、半途にして逃げ込み、聽衆は彼の失敗につき辯護する滑稽を演じたこの事である。亦チスレリーも、演説の初舞臺に失敗して、聽衆より冷笑と罵詈雑言を浴せられたが、後大いに勉強して、遂に議會第一の雄辯家となつた。

吾國に於ても、此種の例を擧ぐれば幾多もあるが、既に色々の書物や雜誌に澤山に掲げられてあるから、此上讀者を倦ます事を見合はせ、私が鐘淵紡績會社に従事して失敗した話を述べる事にしよう。

私が鐘淵紡績會社に雇はれたのは二十七歳の時で、其迄は大したる苦

コブデンやチスレリーでさへ

私の失敗録



勞もなく、月給取となり、氣樂に過ぎ來たり、殊に會社は三井家が株主で、金融は三井銀行の後援を受け居り、何等心配することもなく、從つて會社の財政については、何等の慮りもなく、専心事業の經營に没頭して居つた。然るに明治三十三年義和團事件に引續き、吾が財界に一大恐慌が起り、當時二六新報の攻撃を受け、三井銀行が取付けの厄に遭つた。それが爲め、會社が柱と頼みたる三井銀行から新に金融が受けられぬのみならず、許す限り既に借りたる金も返済せねばならないやうになつた。其時の私の苦心困難は一通りでなく、三井銀行の金融を少しにても緩やかにせんが爲め、日本銀行より支那棉を擔保として借金したるころ、當時の日本銀行は全額を一時に返済しなければ、一部分づつの返済による擔保品の内出しを許さぬ規定であつた。其れが爲め百万金策に

つこめ、漸く借りた金を一度に返済することが出來て、支那棉を引取つた所が、支那棉には水氣を入れる習慣であつた爲め、一部分腐さつた所が出來て、また大困難をした。其後日本銀行より金を借りた事はないが今日では内出しを許さぬと言ふやうな窮屈な規定は日本銀行でも廢したであらうと思ふ。近頃吾國の財界に於て金利が高いとか、金融が困るか言ふ困難話を時々聞くことがあるが、其の當時吾々が嘗めた金融の困難に較べると、池の魚と鹽の中の魚との差がある。當時三菱銀行に參萬圓を借りに行つて、漸く承諾を得て難有いと思つた事もある。又正金銀行神戸支店へ綿糸を擔保に金拾萬圓を借りに行つて、本店の指令を仰ぐ間二週間も待たされたやうな事もあつた。

かくの如く、自分は事業の經營には、財政が主である事を考へずして、



此の失敗に鑑みて

休息も亦苦痛

三井銀行に全然依頼して居つたのは大失敗であつた。それが爲め受けた困難は一方ならずであつた。幸ひ久しからずして三井銀行の取付も止み再び金融の便を得るに至り、會社の財政は困難より免かるに至つた。然しながら、此の失敗は私をして大いに奮起努力するの勇氣を振ひ起さしめた。此の失敗に鑑み、是非共一日も速かに會社の財政の基礎を確立せんことを考へ、一方には二回も無配當を行ひ、其後も極めて低い配當を行つたが、此間株主の受けた苦痛も一方ならぬものであつた。同時に私も亦一年三百六十五日奮闘努力し、後年其の目的を達したる時に至り、日曜日だけ會社を休み休息せんとして、最初は之を實行するに大いに苦痛を感じた。人は働らく事も苦痛であるが、休息する事も亦苦痛である。何れも一種の習慣であつて、要は心の持方如何による。

少く借りるこゝ

禍を轉じて福と爲せ

而して私は此の失敗に鑑み、世の中で仕事をするものは、なるべく、他より少く金を借りることが必要であることを、切實に感じた。殊に事業家は銀行より多く資金を借入れると、其方に氣を取られて、心を事業の經營に専らにすることが出来ぬ。事業會社は、最初多くは、其の資金を全部土地建物機械等に固定せしむるのみならず、時としては不足を告げて、固定資金すら銀行から借入れることがあるが、何れかと言へば、固定資金は勿論、營業用の資金でも、なるべく少く銀行より融通を受けることが最も事業經營上心掛くべきことであると、自分の經驗より此事を述べた次第である。

要するに、失敗なるものは、人生に於て何人をも襲ふ所の災厄であつて、之を轉じて福とするか、之に捉はれて浮ぶ瀬なきに至るかは、一に



道義的勇氣

之に對する勇氣と決心の如何に依りて分かるるものである。然るに吾國に於ては、兎角失敗に對する責任觀念が誤り考へられて、失敗の爲め世間に申譯なしとて、甚だしきは自殺するものすらあるが、是れは眞の勇氣でなくて、寧ろ弱い道徳心の發動である。吾々は失敗に對する責任を感じれば感ずる程、強くこれと戦つて、最後の勝利を占むる勇猛心を起し、大いに奮闘努力せねばならぬ。これが眞の失敗に對する責任觀念であり、道義的勇氣であると考へねばならぬ。

最後にヂスレリーの訓言を掲げて、本章を結ぶ。

「失敗！失敗とは何の謂ぞ。是れ世上の常事にあらずや、否大事業の階梯にあらずや。吾人は是れに由つて萬卷の書も能く教へざる經驗を得又能く將來萬全の策を盡すことを得、何者の痴漢か失敗に遭ふて失望

「失敗は人生の至寶なり」

するものぞ。嗚呼、失敗は天の吾々に幸福を降す所以にして、實に人生の一大至寶なり。」



### 一五 金儲の秘訣

貧乏は誰も嫌ひ……古今東西同一轍……カーネギーと貧乏詩人……取るに足らぬ富の力……大富豪の貧乏禮讚……儲けたいのが人情……成功の秘訣……運・鈍・根……『艱難汝を玉にす』……キングスレーの短篇より……金儲の第一階梯……百貨店主の生立ち……必ず貯蓄する……其の日暮しは……イー・エッチ・ゲリー氏……父君の訓戒……立身出世の基礎……給仕も株主……金儲けの定石……定石だけでは……『機會』の神像……好機は再来せず……最後の秘訣……『金』に対する誤解……『金』も畢竟物的一種……賣る可きに買ひ、買ふ可き賣る……最近の實例……切り上げが肝心……一將功成り萬卒枯る……金を物と思ふ……大抵の所で見切りを付ける……金儲と人生……最後の勝利……心の富……正しく儲けて正しく費せ……『金を負へる驢馬』

貧乏は誰も嫌ひ

古今東西同一轍

カーネギーと貧乏詩人

人生の仕事は金を儲けることのみではない。然しながら、誰しも嫌ふものは貧乏である。

日本の諺にも、四百四病の中、貧の病よりつらいものはない、と言ふことがあり、西洋にも、貧乏神が屋内に入り来れば、愛の神は窓外に逃れ去る、と言ふ様な諺があつて、貧乏をいやがる情は古今東西共通である。去りこて金を儲けて金持になつたこて、それで心が満足するものではない。

アメリカの有名なる大富豪カーネギー氏と、スコットランドの匿名詩人アール、シー氏と、新聞紙を通じて意見を交換した事がある。詩人はカーネギーの富める境遇と、自分が天然を友として樂める愉快なる境遇とを叙して、カーネギーと自分と、心の満足の上に於て何等の差違もな



取るに足らぬ富の力

大富豪の貧乏禮讃

いと言ふ詩文を公けにし、新聞社よりカーネギーに取次いだ。之に對するカーネギーの返事は、眞に面白い。アール、シー氏の叙情詩は、洵に面白く拜見したが、詩人であつて哲學者たる氏は、失禮ながら單に物の片影を想像せらるるに過ぎずして、小生の如く全生涯に於て、能く其の兩方面を経験されて居らない。自分は貧しき境遇より、今日富める一人となつて、富なるものの力の、取るに足らぬ微弱なるものなるを發見した。人の心の奥底に、満足の念宿らざば、如何に賢明であつても、又巨萬の財を積むとも、終には福祉の恵みに遭はざるべし、との意味を答へた。カーネギーは、世の中に金持がなくなつても、貧乏人がなくならぬやうにしたいと言つて居る。これは金持の境遇よりは貧乏人の境遇が、偉い人生を生み出すからだと思ふ。然しながら、カーネギーの様な金持で、

備けたいのが人情

人生を達觀せる偉人にして、初めて此言が爲し得るので、何程言つたさて、金儲けがしたいのは人間普通の心情である。故に聊か金儲の秘訣を説いてみよう。

私は金について餘り趣味がない。又自身の經驗として人の雇人となつて今日に至つたに過ぎない。世の多くの獨立して商工業を営みたる人の如き經驗もなければ、又別に自分の力で金儲けした經驗もない。唯會社より受くる報酬を貯蓄して、多少の資産を作つたと言ふに過ぎぬ。また事實金持と言はれるほどの財産もない。故に此點から言へば、私は金儲の秘訣を語る資格はない。然しながら、世中に於て、多くの人が皆大金持となる事は、如何なる奮闘努力を以てしても出来るものでない。故に金儲の秘訣は、必らずしも大金持になると言ふ秘訣のみでない



成功の秘訣

運・鈍・根

従つて、私が人生の仕事の上に多少でも成功しようとする者の秘訣と言ふ意味で、金儲けの方法を説いても、敢て非難するものもあるまい。

嘗て横濱の或る富豪が語つたところを傳へ聞いたが、金持になるには、運、鈍、根の三要素がなければならぬと言つたと言ふ事である。これは洵に至言であると思ふ。如何なる人も、運が向いて來なければ、大なる成功は伴ふものでない。また餘りに機敏にして、絶えず方針を改めたり、職業を變更しては、却つて成功の妨げとなる。寧ろ此の點に於て、鈍であると言はれる位がよいに違ひない。最後に、根は大成功の要素としては、第三位に位すべきものであるかも知れぬが、普通金儲の要素としては、此の一要素を以て足れりと思ふ。根強く働いて居れば、小金が出来て、一家睦ましく一生を送る位の事は、何人でも出来る事で、根

ほど大切なものはない。

「艱難汝を玉にす」  
キングスレーの短  
篇より

要するに、金儲けの第一の要素は、困難に堪へることである。「艱難汝を玉にす」と言ふ諺があるが、艱難せずして成功するものはない。英國の文學者キングスレーは、其の短篇に於て、英國人の嫌ふ北東の風を讃して曰く、「香ばしき南風をして吾國の腰を吹かしめよ、其間に怠けた伊達男は貴女の胸裏に温められん、心と筆とを軟らぐるの外、彼將た何んの爲す所ぞ、堅忍なる英國人を育成したるは、激しき灰色の天候なりけり、去りながつ、飛雪粉々たる黒き北東風は、吾が堅忍不拔の英國人を、此の世界中の海上に驅逐す、來れ、且つ吾等を強からしめ、ヴァイキング（昔の北方の海賊の名）の血を激せしめよ、瘤と筋とを引締めて吹けよ、汝、神の風よ」



金儲の第一階梯

困難は成功の要素であつて、此の困難に耐へ忍ぶと言ふ事は、金儲の第一階梯である。能く困難に耐へ、能く働らく時は、雇人としては主人に見出され、追々に出世し、又獨立して仕事をするものも次第に信用を増し、繁榮に赴く。

百貨店王の生立ち

先日物故した米國の有名なる百貨店の元祖、ワナメーカーは、其の初めフワラデルファイア市の本屋に、一週間二圓五十錢、即ち月拾圓の給料で雇はれ、毎日往復四里の道を、徒歩で田舎から通勤して居た。其の後一週三圓の給料で呉服屋に雇はれたが、そもく世界一の百貨店主となる第一の階梯であつた。

必ず貯蓄するこゝに

次に金儲に成功せんとするものは、収入の中より幾分づゝでも貯蓄せなければならぬ。由來日本人には貯蓄を賤しむ習慣があつて、宵越しの

其の日暮しは

金は持たぬなごこ、自慢する氣風があるが、如何なる方面から考へても、貯蓄する事なくして成功を見る筈がない。其日暮しと言ふ事は、よく言ふ事であるが、僅かの収入の者でも、其の中から貯蓄するものは、其の日暮しをするものでなく、如何に多くの収入のあるものでも、貯蓄せぬものは其日暮しをするものであると言はねばならぬ。

イー・エツチ・ゲリー氏

私は、先年米國華府に開かれた國際労働會議に列した時、有名なる米國製鋼會社社長イー・エツチ・ゲリー氏に會見した事がある。氏は誠實に道義的勇氣に富んだ人で、今日は米國に於ける一大製鋼會社で、大正八年の如き一ケ年に四十億圓の利益を擧げた大會社の社長であるが、其の生立を聞けば、氏は田舎の地主の子供で、中年に辯護士の書生となり、シカゴの或學校にて勉強し、卒業後控訴院の判事となつた人である。家



父君の訓戒

を出る時、氏の父は「汝は將來貯蓄に心掛け、寺院に寄附する外は、決して無駄使ひをしてはならぬ」と、懇々訓戒されたこの事である。それで控訴院に奉職中でも、給料の中から剩まして、幼少より父より受けた教育費を父に返却した。それは其の両親が貧困であつたからでなく、自分の事は自分でせねばならぬと言ふ自負心からである。氏は今の若き人々が、地位の榮達し行く事のみに汲々として、大切なる貯蓄を顧みぬは不思議である。實に貯蓄は立身出世の基礎である、と言つて居る。かくて氏は自己の經營せる製鋼會社の株を、従業員に貯蓄を奨励しつゝ、持たせる事につこめて居る。現在同社従業員は五十萬人あつて、其中既に七萬人は、同社の株主となつて居ることである。私が氏に面會した時、製鋼所所在の製材工場の給仕の一人が、其の經營について自分に意見を申

立身出世の基礎

給仕も株主

金儲けの定石

定石だけでは「機會」の神像

好機は再來せず

し出た時、其の給仕は僅かながら其の會社の株を持つて居ると言つて來たこと、非常に愉快氣に其話をせられた。

貯蓄の大切な事は最早これ以上語るの要はない。困難に耐へよとか貯蓄をせよとか、言ふ事は恐らく何人も餘り多くを聞かされて、最早金儲の秘訣としては聞くを好まぬ人が多いであらう。然しながら、それは圍碁の定石のやうなもので、此一つは何人も之を心得て居らねばならぬ。去りながら、世の中に於ける生存競争の實戦に臨んでは、唯これだけでは大なる成功を獲得する事は出来ぬ。必らずや、常に何人の前にも來るところの成功の機會を捉へる事を怠つてはならぬ。西洋の或彫刻師が諸種の彫刻を陳列した時、足に羽根のある神像を置き、紙を以て覆ひ、之を「機會の神」と命名した。それは機會は絶えず斯様に來るものであ



るが、世人は此の薄き紙一枚のため之れを発見することが出来ない。又時々之を発見しても、早く之を捕らへぬと、其足の羽根で直ぐ飛び去つて仕舞ふと言ふ事を諷したものであつた。實際かくの如く誰の前にも機會は常に來るものであるが、熱心に注意して居らぬと、之を発見し得ない、又發見しても掴むことが出来ぬのである。

最後の秘訣

「金」に対する誤解

扱最後に、自分が兵庫の片隅の鐘淵紡績會社の事務所に多年居つて、東京や大阪で大いに金儲をせんとて、浮身を窶す多くの人々の成敗の跡を靜かに眺めて、自分の感じたところを、金儲をせんとする人々に一つの秘訣として話さう。

多くの人々が一通り成功して、又失敗する其の原因を見るに、金に對する考方を感じ違ひするからである。金は一種特別のものであつて、物と

「金」も畢竟物の一種

賣る可きに買ひ、買ふ可きに賣る

は懸け離れたものであると誤解するからである。金も畢竟「物」の一種であつて、金も物と同様に考へると、大いに利益すべきところを、反對の途を歩むから失敗する。金を物と思へば、金が安ければ他の持物を賣つて金を買附けねばならぬ。金が高ければ、持金を賣つて他のものを買ふが利益である。此の眞理を多くの人々は誤解して、金の安い時に、無暗に銀行から金を借りて高い物を買つたり、銀行で借りぬまでも折角貯めた小金で高い権利株を買はされたりして損をする。又金の高い時は、金を賣つて安い物を買ふことをすればよいのに、金利の高い時に高い金を賣らずして、安い物の方を賣るから、金儲が容易に出来るのに、却つて損をするのである。試みに日清戦争後でも、日露戦争後でも、今度の世界大戦争後でも、戦時戦後の財界の波瀾に就いてこれを見れば、此事が



## 最近の實例

極めて明白に解かる。最近の例について之を示せば、大正六、七年頃は、外國から金を無暗に取込んで、金の相場は暴落し、銀行の貸付利息は預金利息と殆んど同一に下がり、銀行はペンやインキや帳簿の紙代も拂へぬ様な苦しい時があつた。此時に金を儲けんとする多くの人々は、物を賣つて金を買ふべきであるのに、反對に銀行より多く借りて、高い物を買つた。其の結果は、物が下がつて金が上がり、後に至つて銀行から返金を迫られ、安い物を賣つて高い金を買はなければならぬ破目に陥入つて、大部分失敗したのである。

斯く言へば、君の言ふ様に大正六、七年に用心して居れば、大正八年の大暴騰時代の金儲を逸するではないか、と言ふ人があるかも知れぬが、若し大正六、七年に私の秘訣を皆が行つて居たら、大正七年より八年の

## 切り上げが肝心

## 一將功成り萬卒枯る

財界の狂態は現出しなかつたであらう。又假りにこれが起り得るとして、金儲せんとする人の考へねばならぬ事は、早く切上げる事である。試みに芝居を見るお客が最後の幕迄見て居つて、打出し前に萬一火事が起つたとしたら、押寄せた幾人が果して無事に逃げ出し得るだらうか。芝居に火事のあることは極めて稀であるが、好景氣の裏には、其の反動の起るは必然の事柄であるとして見れば、金儲は大抵の所で切上げねばならぬ。然るに最高潮に大利を獲得せんと、大勢が鰻上りに上つて行く、其時突如反動が現はれて、多くの人々は谷底に墜落し、所謂一將功成つて萬卒枯るの慘狀を金儲の戦場に殘すに至る。

かく考へて見れば、金儲の眞の秘訣は金を金と思はずして、常に物と思つて、其の相場の高低に注意すること、大抵の所で見切りを附ける



金を物と思ふこと

大抵の所で見切りを付けること

金儲き人生最後の勝利

心の富

正しく儲けて、正しく費せ

と言ふ、此の二つの秘訣さへ忘れずに奮闘すれば、成功疑なしである。

私は私の知り得る限り金儲の秘訣を教へたが、最後に一言しなければならぬことがある。金を儲けて金持になることは何人も望むところであるが、それは人生に於ける最後の勝利でない。人生に於ける最後の勝利は、正義の爲めに盡すことである。人の心の眞の満足は金儲けをする所にあらずして、儲けた金を持つて、如何に社會の爲めに盡すかにある。金を儲けて最後の目的となし、貪慾飽くなきものは、如何に物質的に富んでも、眞に心の富めるものと言ふことは出来ない。人の慾望には限りなく、此世に於て大金持となることは、誰も望むことであるが、偕如何に大金持となつても、人は一度は死なねばならぬ。人が此世を去る時、眞の凱歌を奏して、彼の世に去り得るものは、金を儲けて之を正しく費すこと

金塊を負へる驢馬

を知る人々のみである。私は此の章をシエークスピアの左の一句を以て結ぶ。

「汝富むと雖も尙貧しきに同じ、例へば金塊を負ひたる驢馬の如し、重き富を負ふと雖も、畢竟行旅のみ、死はた汝の重荷を卸すなり。」



### 一六 人生の眞意義

自由を求めて……自ら自由を縛る……神が人間を創造する時……満足の心……終生煩悶……何を満足の標準とするか……永遠の闘争……奉仕と満足……先づ人心の改造から……

自由を求めて  
自ら自由を縛る  
神が人間を創造する時

人は生れながらにして自由を欲する。これは彼の赤子が母の愛の手より常に脱れんとするを見ても分かる。然るに人類社會の實状を見れば、人は自ら自由を束縛しつゝ、あるは何故であらう。是れ人が自由を欲して他人を害し、己れの利益幸福あるを知りて、他人の利益幸福あるを知らざるが爲めである。若し人間の心が、總て神の如くならば、總ての社

満足の心

會思想の問題は起らぬ。

昔の話に、神が人間を創造するとき、傍らの天使が満足の心をも加へんことを望みたるに、神は之を斥けて、満足の心だけは人間自らをして得せしむ可しとて、之を除かれたりこの話がある。

終生煩悶  
何を満足の標準とするか

是れ人が満足を欲して満足を得ず、終生煩悶する所以なるが、茲に於て、吾々は人生の眞意義は、何れにあるかを考へねばならぬ。

永遠の闘争

若し人生なるものが、相互に満足を欲し、其の満足なるものを、己の快樂又は物質的成功に置くとすれば、人類社會は、永遠の闘争より免るる

奉仕と満足

ことが出来ないであらう。之れに反し、若し各人が人生の眞意義を今少しく高いところに置いて、社會全體の爲めに奉仕したと言ふ自覺の中に眞の満足と愉快を見出すに至らば、茲に初めて階級闘争の念は消滅する。



先づ人心の改造か  
ら

故に現代社會の制度に向つて不満を抱く人々は、形の上に相争ふて其の目的を達せんとするよりは、人の心の改造に向つて、其の努力を捧ぐべきである。人の心の奥底に満足の念宿るに至らば、社會思想の問題は總て解決する。是れ私が最後に人生の眞意義を説いて世に訴ふる所以である。

### 實業讀本 (畢)

大正十四年十二月廿五日印刷  
大正十五年一月一日發行

實業讀本 奥付

定價金 壹圓

著者 武藤山治

東京市本郷區弓町一ノ二五

發行者 鈴木利貞

東京市本郷區弓町一ノ二五

發行所 日本評論社

振替東京九六七八番  
電話小石川一九七一番

東京市神田區松下町七

印刷所 明治印刷株式會社

印刷者 佐藤磨

不許複製

嚴禁



嚴禁轉載



著孝正田太 士博學濟經

# 本讀濟經

錢五十料送 圖壹金價賣 (る當に頁〇〇五質質) 頁〇八一判大菊

常識の經典! 學問民衆化の急先鋒!!

著者巻頭に曰く……

桃太郎

は、桃から生れた。彼に親はない。——人は、獨立心をもたねばならぬ。彼は鬼を征伐に行つた。鬼とは人でなしである。これを征伐するのは世の正義を知らしめるにある。まことに貴い仕事である。

氣のやさしくて、力のある彼は、すでに働く力をもつてゐる。榮養分の多いキビダンゴは、さらに力づける。しかも、彼はたゞの男でない。雄の智と、犬の才と、猿の能をよく利用し得る男である。分業の利を知り犬と猿を争はしめない。圓滿な指揮者である。

そして彼は、目的どほり鬼を征伐した。寶を獲た。しかし、たゞ、みづからの物とはしない。これをよく分けた。我利我利ではない。分配の道を忘れない。以下略

こんな碎けた調子で書いた經濟學の讀本は、日本は愚か本場のイギリスにも、ドイツにもアメリカにもない。

經濟學者たる著者は、記者としても一家の風をなす文章を書く。この意味において、本書は、おとぎばなしの如くやさしいが、バイブルの様に意味が深い。しかも本書には、脚註(大抵イニ)として、諸學者の説をはじめ、參考資料をもれなく掲げてある。本書を再讀三讀する事によつて、我々の必要とする經濟學の常識は充分に獲られるのである。

本書を讀めば……

學生諸君

はおとぎばなしを讀む安らかさで、大學の講座を聞くと同じ程度の經濟學がわかるであらう。

學校當局者

は小中大學をとはず、本書を教科書もしくは教材として採用する事によつて、説明の煩を省き、學修の能率を數倍するであらう。

實務家諸君

は本書を讀む事によつて、世の中の經濟關係をそらんじ、運命開發の鍵を掴み、時代に優先權を持つてであらう。

獨學者諸君

は經濟學に入る門を本書に選ぶことによつて、直ちに斯學の堂奥に進むの道を見出すであらう。

## 萬人の必讀すべき新時代の國民讀本

政界の巨人尾崎雄先生の快著。劈頭「此書は自主獨立の觀念ある人に薦める。奴隸人は讀むなかれ」と喝破して、新時代の目醒めたる青年のために、新しき政治常識を説かれるもの。普選が實施されて政治的に一大革新を見た時、本書の公刊は正に天下萬民の要求に従つたものである。所説の明快と行文の流暢とは云はずもがな、先生一流の諷刺と國土的氣魄とは、正に本書に萬金の重みを與へるものがある。

### 内容概目

- 一、自主獨立人へ・二、國家と個人・三、國家の發達・四、愛國の本義・五、忠君の本義・六、憲政の本義・七、司法權の獨立・八、行政權の今昔・九、立法權の優起・一〇、兩院の構成と其權限・一一、一般投票・一二、選舉の神聖・一三、選舉の費用・一四、立憲制度と封建思想・一五、會議の本質・一六、憲政の今昔・一七、財閥政治・一八、國防の本義・一九、八方塞り・二〇、幕末史の再演・二一、局面打開の應急手段・二二、第二維新の長計・二三、私有慾と奉公心

菊大判約二百頁

實費金壹圓

送料十五錢

# 本讀治政

著雄行崎尾



—近刊豫告—

財政讀本

法學博士

下村

宏著

法律讀本

法學博士

穗積重遠著

定價各册金壹圓(送十五錢)



322  
455



終

